



看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.12-03 13.3.21

夜勤負担が重い病院ほど、離職率が高い ～日本看護協会の看護師需給調査速報より～

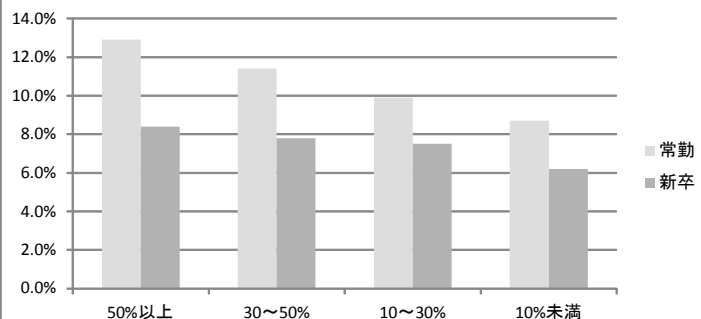
1ヵ月当たりの夜勤時間(月夜勤)が72時間超となる看護職員の割合が高い病院ほど、看護職の離職率も高い傾向にあることが、日本看護協会がおこなっている2012年の「病院における看護職員需給状況調査」でわかった。この調査は全国8632病院中3392病院が回答(有効回収率39.3%)し、11年度中の需給状況について常勤看護職員と11年度に病院に就職した新卒職員について聞いた結果が速報値でそのことがあきらかになっている。

看護職員1人あたりの1ヵ月の夜勤時間は「72時間超(3交代夜勤で9日以上)」が31.9%、「80時間超(3交代夜勤で10日以上)」は17.3%にのぼる。(※注1)

1ヵ月の夜勤時間が「72時間超」の看護職員の割合が50%以上の病院では、常勤看護職員の離職率が12.8%と高い傾向にある(右図参照)。

病床規模や設置主体で比較しても「夜勤の負担が重い病院ほど、離職率が高い傾向にある」と報告している。人員確保のために、夜勤改善は、まったなしの課題といえる。

病院における月夜勤72時間超の看護職の割合(横軸)と離職率(縦軸)



大幅増員・夜勤改善署名にとりくもう 「ベースアップと夜勤改善でやる気アップ」一言メッセージを本社に届けよう

※注1 日本医労連のおこなった2012年度夜勤実態調査では、看護師確保法・基本指針に抵触する夜勤「月9日以上(月4.5回以上)・72時間超」は、3交代で25%、2交代で31%であった。調査法がことなるので、単純に比較は難しいが、医労連の調査の方が、「夜勤72時間超」が少ないのは、労働組合があり、夜勤のルールを守らせていることが大きいといえる。





看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.12-03 13.3.21

夜勤負担が重い病院ほど、離職率が高い ～日本看護協会の看護師需給調査速報より～

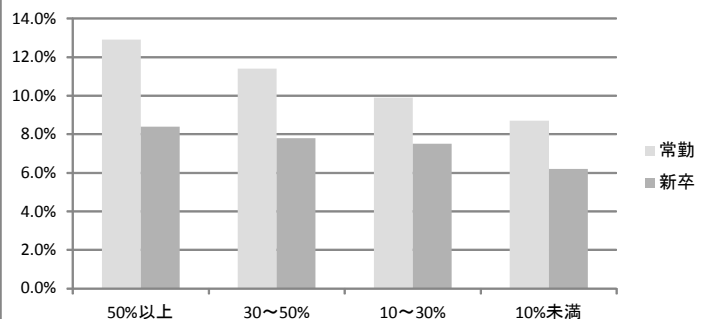
1ヵ月当たりの夜勤時間(月夜勤)が72時間超となる看護職員の割合が高い病院ほど、看護職の離職率も高い傾向にあることが、日本看護協会がおこなっている2012年の「病院における看護職員需給状況調査」でわかった。この調査は全国8632病院中3392病院が回答(有効回収率39.3%)し、11年度中の需給状況について常勤看護職員と11年度に病院に就職した新卒職員について聞いた結果が速報値でそのことがあきらかになっている。

看護職員1人あたりの1ヵ月の夜勤時間は「72時間超(3交代夜勤で9日以上)」が31.9%、「80時間超(3交代夜勤で10日以上)」は17.3%にのぼる。(※注1)

1ヵ月の夜勤時間が「72時間超」の看護職員の割合が50%以上の病院では、常勤看護職員の離職率が12.8%と高い傾向にある(右図参照)。

病床規模や設置主体で比較しても「夜勤の負担が重い病院ほど、離職率が高い傾向にある」と報告している。人員確保のために、夜勤改善は、まったなしの課題といえる。

病院における月夜勤72時間超の看護職の割合(横軸)と離職率(縦軸)



大幅増員・夜勤改善署名にとりくもう 「ベースアップと夜勤改善でやる気アップ」一言メッセージを本社に届けよう

※注1 日本医労連のおこなった2012年度夜勤実態調査では、看護師確保法・基本指針に抵触する夜勤「月9日以上(月4.5回以上)・72時間超」は、3交代で25%、2交代で31%であった。調査法がことなるので、単純に比較は難しいが、医労連の調査の方が、「夜勤72時間超」が少ないのは、労働組合があり、夜勤のルールを守らせていることが大きいといえる。





看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.12-03 13.3.21

夜勤負担が重い病院ほど、離職率が高い ～日本看護協会の看護師需給調査速報より～

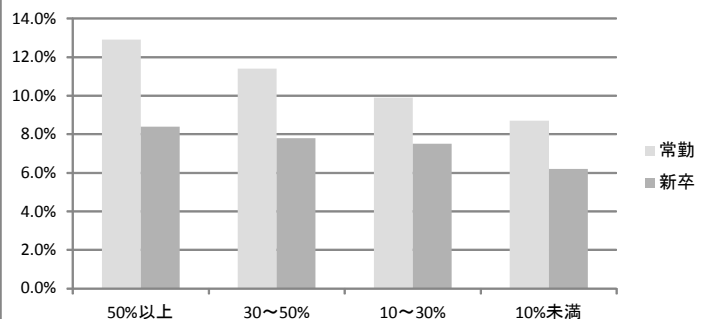
1ヵ月当たりの夜勤時間(月夜勤)が72時間超となる看護職員の割合が高い病院ほど、看護職の離職率も高い傾向にあることが、日本看護協会がおこなっている2012年の「病院における看護職員需給状況調査」でわかった。この調査は全国8632病院中3392病院が回答(有効回収率39.3%)し、11年度中の需給状況について常勤看護職員と11年度に病院に就職した新卒職員について聞いた結果が速報値でそのことがあきらかになっている。

看護職員1人あたりの1ヵ月の夜勤時間は「72時間超(3交代夜勤で9日以上)」が31.9%、「80時間超(3交代夜勤で10日以上)」は17.3%にのぼる。(※注1)

1ヵ月の夜勤時間が「72時間超」の看護職員の割合が50%以上の病院では、常勤看護職員の離職率が12.8%と高い傾向にある(右図参照)。

病床規模や設置主体で比較しても「夜勤の負担が重い病院ほど、離職率が高い傾向にある」と報告している。人員確保のために、夜勤改善は、まったなしの課題といえる。

病院における月夜勤72時間超の看護職の割合(横軸)と離職率(縦軸)



大幅増員・夜勤改善署名にとりくもう 「ベースアップと夜勤改善でやる気アップ」一言メッセージを本社に届けよう

※注1 日本医労連のおこなった2012年度夜勤実態調査では、看護師確保法・基本指針に抵触する夜勤「月9日以上(月4.5回以上)・72時間超」は、3交代で25%、2交代で31%であった。調査法がことなるので、単純に比較は難しいが、医労連の調査の方が、「夜勤72時間超」が少ないのは、労働組合があり、夜勤のルールを守らせていることが大きいといえる。





看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.12-03 13.3.21

夜勤負担が重い病院ほど、離職率が高い ～日本看護協会の看護師需給調査速報より～

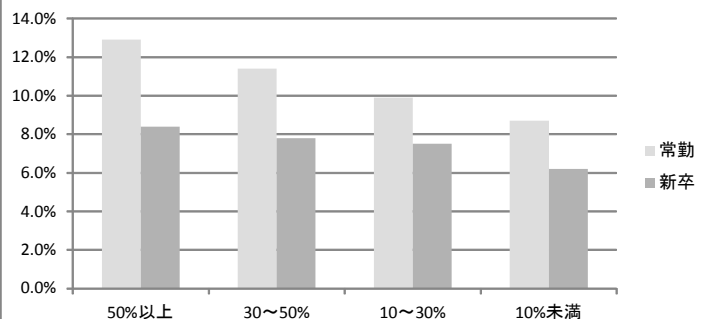
1ヵ月当たりの夜勤時間(月夜勤)が72時間超となる看護職員の割合が高い病院ほど、看護職の離職率も高い傾向にあることが、日本看護協会がおこなっている2012年の「病院における看護職員需給状況調査」でわかった。この調査は全国8632病院中3392病院が回答(有効回収率39.3%)し、11年度中の需給状況について常勤看護職員と11年度に病院に就職した新卒職員について聞いた結果が速報値でそのことがあきらかになっている。

看護職員1人あたりの1ヵ月の夜勤時間は「72時間超(3交代夜勤で9日以上)」が31.9%、「80時間超(3交代夜勤で10日以上)」は17.3%にのぼる。(※注1)

1ヵ月の夜勤時間が「72時間超」の看護職員の割合が50%以上の病院では、常勤看護職員の離職率が12.8%と高い傾向にある(右図参照)。

病床規模や設置主体で比較しても「夜勤の負担が重い病院ほど、離職率が高い傾向にある」と報告している。人員確保のために、夜勤改善は、まったなしの課題といえる。

病院における月夜勤72時間超の看護職の割合(横軸)と離職率(縦軸)



大幅増員・夜勤改善署名にとりくもう 「ベースアップと夜勤改善でやる気アップ」一言メッセージを本社に届けよう

※注1 日本医労連のおこなった2012年度夜勤実態調査では、看護師確保法・基本指針に抵触する夜勤「月9日以上(月4.5回以上)・72時間超」は、3交代で25%、2交代で31%であった。調査法がことなるので、単純に比較は難しいが、医労連の調査の方が、「夜勤72時間超」が少ないのは、労働組合があり、夜勤のルールを守らせていることが大きいといえる。





看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.12-03 13.3.21

夜勤負担が重い病院ほど、離職率が高い ～日本看護協会の看護師需給調査速報より～

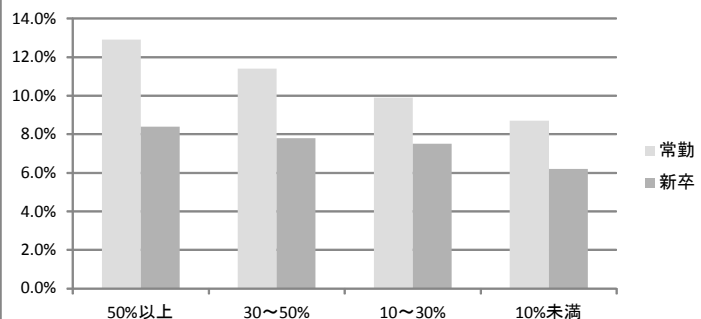
1ヵ月当たりの夜勤時間(月夜勤)が72時間超となる看護職員の割合が高い病院ほど、看護職の離職率も高い傾向にあることが、日本看護協会がおこなっている2012年の「病院における看護職員需給状況調査」でわかった。この調査は全国8632病院中3392病院が回答(有効回収率39.3%)し、11年度中の需給状況について常勤看護職員と11年度に病院に就職した新卒職員について聞いた結果が速報値でそのことがあきらかになっている。

看護職員1人あたりの1ヵ月の夜勤時間は「72時間超(3交代夜勤で9日以上)」が31.9%、「80時間超(3交代夜勤で10日以上)」は17.3%にのぼる。(※注1)

1ヵ月の夜勤時間が「72時間超」の看護職員の割合が50%以上の病院では、常勤看護職員の離職率が12.8%と高い傾向にある(右図参照)。

病床規模や設置主体で比較しても「夜勤の負担が重い病院ほど、離職率が高い傾向にある」と報告している。人員確保のために、夜勤改善は、まったなしの課題といえる。

病院における月夜勤72時間超の看護職の割合(横軸)と離職率(縦軸)



大幅増員・夜勤改善署名にとりくもう 「ベースアップと夜勤改善でやる気アップ」一言メッセージを本社に届けよう

※注1 日本医労連のおこなった2012年度夜勤実態調査では、看護師確保法・基本指針に抵触する夜勤「月9日以上(月4.5回以上)・72時間超」は、3交代で25%、2交代で31%であった。調査法がことなるので、単純に比較は難しいが、医労連の調査の方が、「夜勤72時間超」が少ないのは、労働組合があり、夜勤のルールを守らせていることが大きいといえる。





看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.12-03 13.3.21

夜勤負担が重い病院ほど、離職率が高い ～日本看護協会の看護師需給調査速報より～

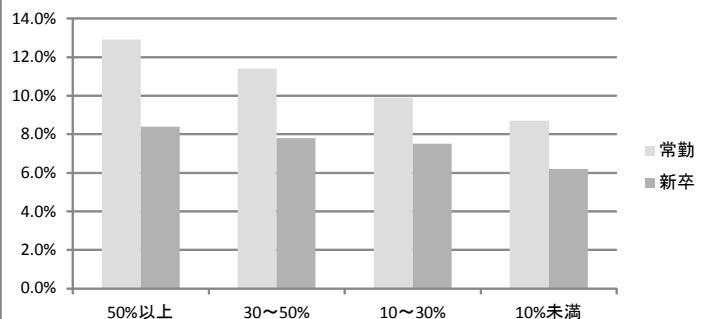
1ヵ月当たりの夜勤時間(月夜勤)が72時間超となる看護職員の割合が高い病院ほど、看護職の離職率も高い傾向にあることが、日本看護協会がおこなっている2012年の「病院における看護職員需給状況調査」でわかった。この調査は全国8632病院中3392病院が回答(有効回収率39.3%)し、11年度中の需給状況について常勤看護職員と11年度に病院に就職した新卒職員について聞いた結果が速報値でそのことがあきらかになっている。

看護職員1人あたりの1ヵ月の夜勤時間は「72時間超(3交代夜勤で9日以上)」が31.9%、「80時間超(3交代夜勤で10日以上)」は17.3%にのぼる。(※注1)

1ヵ月の夜勤時間が「72時間超」の看護職員の割合が50%以上の病院では、常勤看護職員の離職率が12.8%と高い傾向にある(右図参照)。

病床規模や設置主体で比較しても「夜勤の負担が重い病院ほど、離職率が高い傾向にある」と報告している。人員確保のために、夜勤改善は、まったなしの課題といえる。

病院における月夜勤72時間超の看護職の割合(横軸)と離職率(縦軸)



大幅増員・夜勤改善署名にとりくもう 「ベースアップと夜勤改善でやる気アップ」一言メッセージを本社に届けよう

※注1 日本医労連のおこなった2012年度夜勤実態調査では、看護師確保法・基本指針に抵触する夜勤「月9日以上(月4.5回以上)・72時間超」は、3交代で25%、2交代で31%であった。調査法がことなるので、単純に比較は難しいが、医労連の調査の方が、「夜勤72時間超」が少ないのは、労働組合があり、夜勤のルールを守らせていることが大きいといえる。

